

CLAIR トピックス

——最近のクレアの動きを短くまとめて紹介します



シンガポール事務所

「シンガポール日本商工会議所創立 50 周年記念講演会」が開催されました！

シンガポール日本商工会議所（以下、JCCI）は、2019年に設立 50 周年を迎えました。シンガポールが独立した 4 年後の 1969 年に、当時進出していた日系企業 56 社で設立された JCCI は、シンガポールの順調な発展と共に拡大を続け、現在では約 820 会員を擁しています。

10 月 10 日、設立 50 周年を記念し、シンガポールのリー・シェンロン首相をお招きした「シンガポール日本商工会議所創立 50 周年記念講演会」が開催されました。同講演会は日本経済新聞の小柳建彦編集委員をモデレーターに迎えた対話形式で実施され、会員企業をはじめ、在シンガポールの各国商工会議所関係者等、約 1,000 人の方々が参加する盛大な会となりました。

リー首相は、シンガポールで日本企業が果たしてきた役割を高く評価したうえで、日本からのさらなる投資や進出への期待を述べるとともに、自由貿易に反対する風潮が世界的に強まっていることに懸念を持つ中で、東アジア地域包括的経済連携（RCEP）交渉などで日本が重要な役割を果たすことができると訴えました。

また、現在日本が課題として直面している高齢化、過疎化、少子化は、15 年後のシンガポールにおける課題でもあり、日本がこれらの課題に対して取っていく政策から大いに学びたいと語りました。

今回の講演会の内容は、現地のテレビ番組や新聞などで広く取り上げられており、シンガポール国内でも高い関心が向けられていることが感じられました。



リー首相と小柳氏の対談の様子（写真提供 JCCI）



西田氏（JCCI 会頭）からリー首相への花束贈呈の様子（写真提供 JCCI）



ソウル事務所

第 3 回クレアソウルセミナー開催

10 月 31 日から 11 月 1 日の 2 日間、今年度 3 回目のクレアソウルセミナーを開催しました。

今回は「地域（地方）活性化」をテーマとして、韓国の自治体に派遣されている日本の自治体職員とクレアソウル事務所の職員、総勢 20 人で、全羅北道の全州市と群山市を訪問しました。

31 日は、全州市の全北研究院において、セマングム開発庁のパクチョンミョン交流協力課長より、「セマングムの潜在力と推進方向（韓国最大の干拓事業、事業面積は東京都 23 区の 3 分の 2 に相当）」について、全北研究院のキムジンソック研究本部長より、「全北革新都市の発展戦略（ソウル首都圏の過密の是正を目指し、公共機関・試験研究機関などの移転を伴う 10 の都市を全国に整備）」について、それぞれ講義を受けました。

また、1 日は、群山市のカンイムジュン市長やセマングム開発庁のキムヒョンスク庁長を表敬訪問したほか、群山市庁や全羅北道庁との意見交換、セマングム広報館での概要説明、現地視察等を行いました。

セマングム開発地では、2023 年に、世界中の青少年が集う第 25 回世界スカウトジャンボリーが開催されます。



全北研究院講義



セマングム開発地の視察



セマングム開発庁長との意見交換



ロンドン事務所

ドイツ JET30 周年記念レセプションを開催

11月1日、在ドイツ日本国大使公邸にて、ドイツのJETプログラム参加30周年を祝う記念レセプションを、在ドイツ日本国大使館、JETAA（元JET参加者の会）ドイツ支部、クリアの共催で開催しました。

約80人のJET経験者のほか、日系企業や日独交流関係者など総勢約100人が出席しました。ドイツからのJET経験者一期生5人のうち2人もレセプションに出席し、当時の体験を近年のJET経験者と共有したり、また、多くの出席者が、JETAAが作成したJETプログラム参加当時の写真スライドショーに見入ったりなど、思い出話に花を咲かせました。

ドイツからは過去30年間で、約230人の国際交流員、約50人の独語指導助手が来日しており、日独の姉妹都市交流や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウン交流で活躍しています。ドイツからのJET経験者数は英語圏諸国と比べると少ないですが、今回のレセプションでは、JET経験者のコミュニティや、彼らと日本のつながりの強さが見られました。



参加者集合写真



JETAA ドイツ支部代表による挨拶



ニューヨーク事務所

宮城県、県産品プロモーションプロジェクトを 始動＝シアトル大都市圏

11月1日、シアトルの12のレストランで「ミヤギレストランプロモーション」が始まりました。宮城県が実施したこの事業は、現地レストランと連携し、「仙台味噌」や「笹かまぼこ」、地酒などの県産品や、「はらこ飯」や「ずんだ餅」といった郷土料理を期間限定で提供しました。また、同月2日から22日まで、シアトル近郊の宇和島屋ベルビュー店にて「ミニフェア」を開催し、宮城県産商品の販売・試食を行いました。フェア初日には同県職員が店頭に立ったほか、当事務所職員も支援を行いました。



宇和島屋ベルビュー店でのミニフェアの様子

東北地方の魅力を発信 「東北セミナー」

10月15日に、アメリカのハイエンドな顧客を取り扱う米系旅行代理店の担当者約90人に対し、東北の観光情報をPRする「東北セミナー」が日本航空と日本政府観光局の主催（共催：クリアニューヨーク事務所、アメリカン航空）で開催されました。当事務所からは、東北地方から派遣されている職員3人がユニークな体験ができる観光情報を紹介しました。来場者は、具体的なアクセス方法や英語対応の可否について質問するなど、多くの方が東北地方に興味関心をいただいた様子でした。



事務所職員のプレゼンの様子



シドニー事務所

JETAA オセアニア会議開催！～JETAA 設立30周年～

10月5日から6日にかけて、JETAA（元JET参加者の会）の豪州とニュージーランドの支部の代表者が、1年に1度、一堂に会するオセアニア会議が、シドニーで開催されました。同会議は、JETAA各支部が、活動状況報告や、直近の課題等に関する意見交換等を行う場です。

今回は、シンガポール支部からも代表者が参加し、さらに、クリア東京本部の磯部博昭参与も参加し、これまでも増して、国際色豊かな会議となりました。

今年はJETAA設立30周年の節目の年にあたり、各支部代表者は、各支部のこれまでの歴史を振り返りつつ、現在の活動状況や今後の活動展望などを内容とするプレゼンテーションを行いました。また、磯部参与は、JETプログラムの歴史や今後の展望についてプレゼンテーションを行い、参加者から数多くの質問が寄せられ、また、大変役に立ったと好評でした。

オセアニア会議における意見交換等を通じて、JETAA各支部は連携を強め、それぞれの支部の活動を充実しています。



出席者による集合写真



北京事務所

雲南省で JET 経験者との意見交換会を開催

11月16日、雲南省昆明市で、同省から派遣されたJETプログラム経験者を集めた意見交換会を開催しました。

同省は、これまでJETプログラムに30人以上派遣しており、日本との交流が盛んな地域です。初めての開催となった今回の意見交換会では、参加した5人のJET経験者と、日中交流を促進するための方策等について話し合いました。

クリア北京事務所では、今後も中国各地のJET経験者間のネットワーク強化のための取り組みを実施していきます。



参加者との集合写真

旅行博「中国国際旅游交易会 2019 (CITM2019)」に出展しました

11月15日から17日にかけて、クリア北京事務所は雲南省昆明市で行われた旅行博「中国国際旅游交易会 2019 (CITM2019)」にブースを出展しました。同旅行博は、中国内陸部の旅行者や消費者からの注目度が高く、メディアでの露出も多いため、春節の旅行商戦に大きな影響を与えるといわれています。期間中の来場者は約8万人を数え、大きな賑わいをみせました。

20の地方自治体が出展したクリアブースにも多くの来場者が訪れ、各地域の見どころやアクセス方法、訪問に適した季節等について質問を受けるなど、中国内陸部における訪日旅行に対する関心の高まりを感じる3日間となりました。



多数の来場者で賑わうクリアブース前



パリ事務所

仏ブルターニュ地方で行われた「自治体幹部交流セミナー」で香川県が観光政策を発表

10月24日から27日にかけて、仏北西部ブルターニュ地方で、第2回フランス版自治体幹部交流セミナーが行われました。これは全仏地方自治体事務総長組合(SNDGCT)が2年に1度開催しているセミナーで、日本の自治体幹部を招き、フランスの自治体幹部と意見交換や交流を行うものであり、クリア・日本の自治体による「自治体幹部交流セミナー」に対応して行われるものです。今回は「観光政策」をテーマにブルターニュ州各地を巡り、日本からは香川県が参加しました。州都レンヌでの4時間にわたる会議では、ブルターニュ州、レンヌ・メトロポール(レンヌおよび周辺コミューンの広域行政組織)および香川県が、観光政策について発表を行いました。特に、高速鉄道開通後の観光客増加に伴うオーバーツーリズム等の課題やその対応には、各団体の関心が高く、熱心に意見交換が行われました。また、香川県が取り組む、365日対応可能な多言語コールセンターや、主に海外からの個人観光客に向けた多言語の「香川せとうち地域通訳案内士」の登録制度には、フランス側から仕組みを尋ねる声が多くあがり、受入れ体制に関する方策など、活発な議論が行われました。



レンヌでの仏自治体幹部との会議



現在は市庁舎として使用されているサン・マロ城前で観光施策を議論



交流親善課

海外自治体幹部交流協力セミナー(ニューヨーク事務所管内)を実施しました!

11月4日から13日までの10日間、東京都と北茨城市においてアメリカ・カナダの自治体や関係団体の幹部7人を迎え、セミナーを開催しました。

東京都では、総務省や復興庁を訪問して、日本の地方自治制度や、東日本大震災後の復興に係る国の役割について講義を受けました。北茨城市では、「芸術・文化が花咲いた歴史的風土を活かした、芸術によるまちづくり・東日本大震災からのまちづくりの取り組み」というテーマに基づき、岡倉天心の作品が展示されている天心記念五浦美術館や有名な童謡詩人である野口雨情記念館などを視察しました。また、大震災後の復旧・復興のまちづくりとして住宅や市民病院の高台移転などの取り組みも視察しました。さらに、日本文化体験としてホームステイやそば打ち体験、日本旅館での宿泊などを行いました。

セミナーの参加者は、日本の芸術・文化への理解を深めるとともに北茨城市の芸術によるまちづくり、復興の取り組みを学ぶことで大いに見識を深めることができました。また、受入れ自治体にとっても参加者との活発な意見交換を通じて気づきの多い機会となったと思います。



彫刻に触れる蛭田二郎ギャラリーにて視察



意見交換会終了後の集合写真

経済交流課

あなたの地域が持つ魅力に気づいていますか？ ～「食を通じた地域のプロモーション・交流事業」募集開始～

クリアでは、日本およびアジアに料理教室を展開する（株）ABC Cooking Studio（東京都/以下、ABC社）と連携して、日本の地域の魅力を掘り起し、海外販路開拓やインバウンド誘致につなげる、地域の「食」と「文化」が体験できるFAMツアー形式のプロモーション事業を行っています。

令和2年度事業について、以下のとおり募集していますので、奮ってご応募ください！
インバウンドや海外販路開拓の悩みを解決するための第一歩をサポートします！

■ツアー概要

- ・実施回数、地域：全4回、4地域
- ・実施日数：3泊4日程度
- ・招へい地域：中国、韓国、インドネシア、香港、タイ、シンガポール、マレーシア
- ・招へい者：ABC社の海外料理教室に通う生徒等 5人程度

※その他、詳細は本号P24からの「現場レポート」をご参照ください。

■応募資格 都道府県および市区町村

■募集期間 2019年11月12日から2020年1月10日

■応募方法 右記のHPをご覧ください。 <http://economy.clair.or.jp/activity/project/>（「自治体国際化協会 食」で検索）

■お問い合わせ 経済交流課（担当：田村、金） Tel：03-5213-1726 Mail：keishin@clair.or.jp



越後名物「笹団子」作りを体験する様子（新潟市）

多文化共生課

「体験塾」in 浜松 働く外国人との共生の現場を体感しました！

今回初めて開催した、外国人住民との共生の先進取組事例を学ぶ1泊2日の実地研修「体験塾」in 浜松に自治体や国際交流協会の職員20人が参加しました。

行政や国際交流協会の取り組みについて学ぶのはもちろんですが、浜松に行かなければ「体験」できない現場について見聞を深めるのがこの研修の目玉です。

技能実習生や日系外国人へ手厚い日本語教育や生活支援を行っている企業では、外国人従業員を企業の存続に必要な仲間として迎え入れているというお話を伺いました。また、在住外国人の方を対象とした介護職員初任者研修では、受講者の方が公私共に多忙な中、時間と費用を掛けてスキルアップを目指して学ばれていました。他にも日系ブラジル人の方の子育てや教育などに関する体験談を伺ったり、ワークショップで自分の自治体に照らして研修での気づきをまとめたりと、盛りだくさんの2日間となりました。

参加者同士のネットワークづくりもでき、今後の連携にもつながることが期待されます。

今後も多文化共生に関する施策立案に役立つ研修を企画していきますので、ぜひご参加ください！



工場内の見学



ワークショップの様子

JET プログラム事業部

令和元年度 CIR 中間研修を開催！

10月30日から11月1日にかけて令和元年度 CIR 中間研修を開催し、全国から国際交流員（CIR）474人および任用団体のJETプログラム担当者32人が参加しました。

この研修は、CIRや担当者が職場で活かせる知識を習得することをはじめ、参加者同士のネットワークを広げることや、意見・アイデアを交換する目的で開催しました。

クリアおよび総務省の挨拶で全体会を開会し、大宮アルディージャのグローバル推進マネージャーの秋元利幸氏に自身の国際交流活動について基調講演いただいた後、参加者全員で日常業務等についてディスカッションを行いました。参加者は翻訳・通訳の能力向上、プレゼンテーションの手法、災害時の外国人への対応および現役CIRによる姉妹都市交流やイベント企画についての事例発表等さまざまな役立つテーマに関する分科会を受講しました。

クリアではCIR中間研修をはじめ、CIRの能力向上・スキルアップに係る研修を実施しています。JETプログラムのCIRは、これらのさまざまな研修を受講することにより、CIRとしての能力向上を図り、業務にあたっています。地方公共団体の皆様におかれましては、地方公共団体の国際交流活動に貢献できる優秀なJET-CIRの任用を是非ご検討ください。



開会式の様子



基調講演の様子